偉人の「偉さ」についてのアンケート調査による研究

○増山英太郎 (拓殖大学工学部)

About 'the greatness' of greatman.

- Research by using SD method -

Eitaro Masuyama(Faculty of Ergonomics,Takushoku Univ.)

1. はじめに

私の世代の者だと、ほとんどが偉人伝というものを、小生学生の頃何冊か読み、そのうちの何人かにあこがれて、出来ればそのような人のようにになりたいなあ、と思って育ってきたものであるが、今の大学生の場合どうだろう。

2. 方法

2-1 調査方法

拓大の工業デザイン学科学生に、小学生の偉人伝に普通に書かれている、徳川家康、エジソン、アインシュタイン、・・・ナポレオン、ニュートン、宮沢賢治など16人のうち、自分でどんな人だったかということが思い浮かべられる人、2～6人のイメージをSD法によって評定してほしい、と頼んだ。そこで用いたイメージ語は26語であり、各イメージ語を0～3の4段階で評定させ、最後に、偉人であるかを4段階で評定させた。

2-2 解析方法

まず、イメージ語間の相関行列を求め、主成分分析(PCA)を行うが、バリマックス回転などは行わない。次に、得られた主成分軸を独立変数、「偉い」を従属変数 y_1 とする重回帰分析(MRA)を行う。

3. 結果と考察

3-1 主成分分析の結果と考察

1以上の固有値は7主成分までであり、累積

寄与率は61.99%と、低くはない値が得られた。主成分の解釈を行うと、第1主成分：道を曲げない、第2主成分：謙虚でない、第3主成分：威厳のある、第4主成分：集中力のある、第5主成分：品のある、第6主成分：感受性が鈍い、第7主成分：感動しにくい、という様に解釈できる。一見、偉人を説明するには不適切そうな主成分も得られた。

3-2 重回帰分析の結果と考察

まず、偉さの重回帰式を求めると(1)式の通りであった；

$$\begin{aligned}
 y_1 = & 0.410x_1 \quad \text{道を曲げず} \\
 & -0.083x_2 \quad \text{謙虚で} \\
 & +0.063x_3 \quad \text{威厳があつて} \\
 & -0.037x_4 \quad \text{疲れを知らず} \\
 & -0.118x_5 \quad \text{熱心であつて} \\
 & +0.049x_6 \quad \text{感受性が強く} \\
 & +0.011x_7 \quad \dots (1) \quad \text{感動しやすい}
 \end{aligned}$$

ほど、「偉い」と得られ、この結果は我々が常識的に持っている偉人像に近い。この式の標準偏回帰係数で、最も大きい2つは β_1 と β_5 であるので、主成分得点の x_1 と x_5 軸で張られる2次元空間上に、偉人の座標を布置し、そこに原点と (β_1, β_5) の点を通る直線を引いてみたのが、図1である。この直線の右下ほど偉いはずであるが、偉さはこれとは少しずれている。このズレは、7次元空間を2次元空間で表したことによる誤差であろう。

図 1